えっ！縄文ってこんなにすごいのか！Ⅱ

茅野で21日シンポ

発信会議 土偶と黒曜石テーマに

21日のシンポジウムをPRする宮坂さん、長澤さん、鵜飼さん、髙見さん（右から）＝4日、茅野市

長野県と山梨県の八ケ岳を中心に展開した縄文文化を世界に発信していこうと、シンポジウム「えっ！縄文ってこんなにすごいのか！Ⅱ」が21日午後1時から、茅野市民館マルチホールで開かれる。山梨県で埋蔵文化財調査に携わった元県職員らがつくる「一般社団法人縄文文化発信会議」の主催で、諏訪地域の専門家らも登壇。小説家の夢枕獏さん、諏訪市出身の落語家古今亭雛菊さんも出演する。（前田智威）

夢枕獏さん、古今亭雛菊さんも出演

土偶と黒曜石を主なテーマとして、基調講演を元九州国立博物館長の三輪嘉六さん、山梨県立考古博物館長の高橋龍三郎さんに続いて諏訪湖博物館前館長の宮坂清さんが務める。宮坂さんは「黒曜石が日本の産業の流通の基礎を作った」の演題で、「北海道にまで信州産の黒曜石が運ばれている理由のヒントを話したい」と意気込む。

2回のトークセッションには神長官守矢史料館長の鵜飼幸雄さん、大昔調査会理事長の髙見俊樹さん、井戸尻考古館長の小松隆史さんなどが参加。鵜飼さんは「国宝の土偶が二つも茅野にあることの背景を黒曜石から考えたい。この機会に茅野の土地の良さを改めて考えてほしい」としている。

古今亭雛菊さんは縄文文化を題材にした新作落語を披露し、縄文文化に詳しい夢枕さんは「縄文の神の正体」のタイトルで公開インタビューを受ける。

縄文文化発信会議は昨年8月に発足し、山梨県での1回目のシンポジウム、東京でのサロンなどを開催してきた。代表理事の長澤宏昌さん（69）＝笛吹市＝は優れた土器の造形や争いごとの少なさなどの縄文文化の特徴を説明し、「世界中でも稀有な文化のトップがこの地域」と強調。今回のシンポジウムで地域住民が「自分なりの考えやロマンを持つヒントになれば」と話している。

参加には事前申し込みが必要。参加料1000円（高校生以下無料）。申し込みはQRコードから専用フォームで。問い合わせは同会議（電話070・9012・1739、メールjcpc7648@gmail.com）へ。

申し込みフォームのQRコード